

F-4 「住居学」の範囲と内容について 家政学原論研究Ⅶ 十文字学園女子短大 原田 一

目的 家政学の6分科中、住居学は不振の部類に属する。そこで、家政学原論の立場から、住居学の性格を論じ、範囲と内容を明らかにして、その振興に資せんとするとともに、とかく抽象論に流れやすい家政学原論に具体的内容を与えんとする。

方法 住居学と題しまたはこれに類する書籍を集め、その内容を要素に分析し、家政学原論の立場から批判し、内容の再構成を試みた。

結果 住居学不振の主因は、大学・短大における住居学の担当者が主として外來講師の建築家によって占められ、経営者側が家政学出身者の能力を信じないため、研究者が育たないことにある。住居学は建築学と家政学の交錯領域に位し、前者の立場は住宅の建築にあるが、後者の立場は住まい方にあるので、両者は協力して研究を進めるべきである。住宅は主として建物を指すが、住居は建物のほかに、家庭生活の容器として必要な施設・設備・家具・什器・家庭機械・庭園・門・塀・敷地を加え、住居学では、これらの設計、室内外の装飾、衛生、管理、手入れ、清掃、家庭工作、衣・食生活との関連、育児・家族・家庭経営との関連、燃料、人生における住生活の意義、住生活の思想、歴史、アパート・団地の生活、住宅政策等に及ぶ。住居学は、建築学のほか、物理学・化学・生物学・気象学・地質学・心理学・政治学・社会学・哲学等に関係するが、住居についての諸学の知識をただ寄せ集めた雑学ではなく、それらを住生活の充実向上、進んでは家庭生活を中心とする人間生活のために役立つように、有機的に組織したものでなくてはならない。